

# 令和3年度研究計画書

令和3年4月14日

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 研究種類  | 【基盤研究】   |  |  |
| 研究課題  | 世界文化遺産富士山の構成資産を流れる「福地用水」の継承に関する研究  |  |  |
| 研究代表者   | 環境共生科 小笠原 輝  |  |  |
| 研究期間  | 令和2年度 ～ 4年度 (3カ年)  |  |  |
| 共同研究者   | 篠原武 (市立ふじさんミュージアム学芸員)<br>箕浦一哉 (山梨県立大学教授)   | 研究協力者  |  |
| 研究目的  |  | 研究目標   |  |
| <p>福地用水の取水から流末までの実態把握を行い、その全体像とその利用状況を明らかにする。また、生活上、福地用水が不必要となりつつなるなかで、住民および行政が「世界文化遺産にふさわしい“信仰の対象または芸術の源泉に値する”」福地用水の姿について明らかにする。そのうえで、世界遺産の構成資産を流れる福地用水を将来にわたり継承するための問題点を明らかにする。</p> |  | <p>以下の調査を行い、住民と行政が納得する「世界遺産にふさわしい」福地用水のあり方を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福地用水のインフラとしての実態とその利用について実地調査から明らかにしてマップ化する。</li> <li>・住民と行政にとって「世界遺産にふさわしい福地用水」とは何か聞き取り調査を行い、要素を抽出して取水口から下流まで福地用水と人との関わりを分析する。</li> <li>・福地用水の管理と継承の方法について、住民と行政の間でコミュニケーションのとれた仕組みの基盤づくりを提案する。</li> </ul> |  |
| 全体の研究計画   | <p><b>【1年目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●福地用水の実地調査</li> <li>●福地用水の歴史資料検索</li> </ul> <p><b>【1～2年目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●用水路の現状と利用についてマップ化</li> <li>●住民および行政への聞き取り調査 (予備的調査)</li> </ul> <p><b>【2～3年目・3年目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●聞き取り調査 (本調査)・結果分析</li> <li>●行政とともにワークショップ・意見交換会</li> <li>●研究総括 (小笠原)</li> <li>●福地用水の管理のあり方の提案</li> </ul> |  |  |
| 前年度研究計画及び研究成果   | <p>福地用水の実地調査 (進捗率 80%)</p> <p>福地用水に関する歴史資料検索</p> <p>福地用水のマッピング</p>   |  |  |
| 当該年度の実施内容   | <p>福地用水の実地調査を終了させ、用水路の現状と利用についてマップ化を行う。</p> <p>福地用水の実地調査ならびに歴史資料調査、可能であれば住民および行政への聞き取り調査(予備的調査)</p>  |  |  |
| 期待される研究成果   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界文化遺産の構成資産を通る福地用水全体について、その実態 (インフラ・利用・管理) が把握できる。</li> <li>2. 福地用水の価値を (新たな価値を含めて) 再認識する機会を設け、世界文化遺産にふさわしい福地用水の姿を明らかにできる。</li> <li>3. 福地用水の保全をとおして、世界文化遺産の構成資産における宗教的体験の価値を将来にわたって保全するための基盤になる。</li> <li>4. 住民と行政との間でコミュニケーションのとれた福地用水全体の管理のあり方の知見が得られる。</li> </ol>   |  |  |